

そよかぜ 5月園便り

令和4年5月2日（月）

西東京市立そよかぜ保育園

桜が散った後にはハナミズキが咲き始め、散歩先では季節の移り変わりを色濃く感じます。

蒸し暑い日は園庭での**水遊び**も楽しめるようになってきました。

子どもは水が大好き！目や耳、皮膚感覚など**五感**を通していろいろな認識を深めていく乳幼児期に、“**水**”は子どもの感覚を磨いてくれる**万能な素材**です。

暑い時期には水に触れるだけで心地良かったり、水温の変化を感じることもできます。

しずくが光に反射してキラキラ輝くのを見るだけでも、子どもたちは「不思議だな」と感じたり「きれい！」と思ったりしますよね。

そして水は『**子どもの働きかけによって自由に形を変えることができる素材**』というのがまた不思議で面白いところ。砂と混ぜればますます可能性が広がり、イメージも膨らんでいきます。

1歳くらいになると、ただただ水道から流れ落ちる水を手のひらで受けて止めてジーっと眺めたりするようになりますが、「まあ！お水がもったいない！」とすぐに蛇口を閉めないでほしいのです。これは五感を使って水を理解するための大事な第一歩。その後「水遊び」に発展していくわけですが、この五感を通した水遊びは「楽しい」「面白い」「不思議だな」と感じる事が何よりも大切。そのためには、まずこれからの季節「冷たい水が気持ちいい」と感じられることが重要なポイントです。

「気持ちいい」という感覚が「生きる喜び」に繋がり、「楽しい！」「面白い！」という感覚が次へのいろいろな意欲へと繋がっていきます。

そよかぜ保育園では大人も一緒になって、ずぶ濡れになるほど思い切り水遊びを楽しみます。大人や友だちと気持ち良さを共有し、「面白かったー！！」と満足して、シャワーの後は食事を意欲的に美味しく食べ、心地よい疲れと共にストンと眠る。

暑くなってくると、そよかぜではこんな日々を過ごしていきます。

子どもにとって、水は欠かすことのできない素材であることが少しでも分かっていたら幸いです！

水遊びについて書き始めたら止まらなくなってしまう、先月お約束した「うた」についての詳しいお話ができなくなっていました。すみません！来月は必ず！

< お願い >

登園の際は部屋もしくはホールなど必ず中にいる職員に声をかけ、お子さんをお預けいただきますよう、よろしくお願い致します。職員とのコンタクトが取れぬまま出かけてしまわれますと、お子さんの所在が分からなくなってしまうことにも繋がります。

重ねてご理解とご協力の程、よろしくお願い致します。



クラス通信



ひよこ

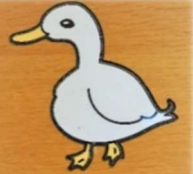
慣らし保育を経て、だんだんと慣れてきた子ども達。目が合うとニコ〜と笑顔を見せてくれたり、抱っこ〜とばかりに膝によじ登ってきたりと、かわいい姿が見られます。離乳食やミルクをおいしそうに食べて飲んで、眠くなったら泣く。大人に抱っこされて気持ちよく眠りにつきます。

お外では、散歩車に乗って桜の花びらが舞い散る園庭の散歩も楽しみました。今後は園外への散歩に出かけて、四季の自然に触れていきたいです。

散歩に行けば“雲の中から聞こえる音を指さし「コーキ、コーキ」、散歩中の犬を見ると「ワンワンいる」、たんぼぼの綿毛を手渡すと小さな口をつぼめ「フーフー」と吹き飛んでいく先を見て「あーあー、あっち」と教えてくれます。

散歩者から降りると、トコトコ走り斜面を登り、後をついてくる友達に気づき“おいで、おいで”と手招きして一緒に笑いながらしゃがんで蟻をつついたり、ダンゴムシの後をずっとついていく子ども達です。“行きたいところに、思いのまま歩けるって楽しい”が伝わってきます。

今月もたくさん遊びながら草花を摘んだり、虫を探して季節を味わって過ごしていきたいと思います。



あひる



すずめ

散歩やフットサルコートなどに出掛けると、たんぼぼやアリを見つけて大喜び！「たんぼぼあった！」「虫がいた！」という声が聞こえると、同じ場所に駆け寄り子どもたち。草花を摘んだり、アリを手の平に乗せたりと、春の自然にたっぷり触れて探索を楽しんでいます。そしてみんな好きなのが**まてまて遊び**。大人が「まてまて〜」と追いかけると、きゃ〜！！と声を上げ笑顔で逃げていく子どもたち。繰り返して楽しみましたよ。

先日鯉のぼりを作り、タンポを使ってぼんぼんつと模様をつけました。お空を元気に泳ぐ姿、お楽しみに！

ひばり組になって一か月が経ちました。最初は慣れなかったリュックでの荷物管理にも少しずつ慣れ、登園時や散歩前など、自分で積極的に荷物を出し入れしています。

4月は、たくさんお散歩に出かけました。今まで行っていたたんぼぼ広場やいこいの森はもちろんのこと、**たこ公園、竹林公園、西原第一公園**など、遠い公園まで足を延ばしていますよ。たくさん歩いて、たくさん遊んで、帰りはクタクタですが、「また〇〇行きたい！」と、元気いっぱい話しています。

今月も天気の良い日にはたくさん戸外に出かけ、身体を動かしながら楽しんでいきたいと思います。



ひばり



天気の良い日は「お散歩に行きたい！」と朝から元気いっぱいにつばめ組。散歩先に着くと、みんなで「よーいドン！」で何度も走ります。かけっこが終わり、それぞれみんな分かれて遊んでいるのに、いつの間にか大人3人のいるそれぞれの場所で、鬼ごっこが始まっていて、結局走っています。園庭では砂水遊びも楽しく、砂山からの大ジャンプ、トンネル作りと水路作り。シャベル使って力いっぱい掘っていますよ。

少しずつ集団が広がり、群れて遊ぶことがより楽しくなる4オクラス。思い切り遊んでの身体作りを通し、遊びも食事をもっともっと意欲的になれるよう、過ごしていきます。

憧れだった年長さんになり、自分の名前が入った雑巾を使って、毎日はりきって雑巾がけ。また、今度は自分たちがペンダントを作って、誕生会で小さいクラスのお友達にペンダントをかけてあげるようになったりと、年長としての取り組みの中でだんだんと自分たちが“年長さん”になったことを実感している様子です。

4月は、筍を探しに竹林公園へ、富士山を見に六仙公園へと、たくさん散策を楽しみました。また、ある日突然届いた地図を頼りに散歩に出かけることもありましたよ。「宝の地図かなあ」「何があるんだろう」と楽しみにしながら歩き、地図の示す場所には、今まで行ったことのない初めての公園が！雲梯や滑り台等思い切り楽しんだはやぶさ組です。

5月も散歩やリズム遊びで元気に遊びながらも、交流保育など年長ならではの行事も取り組んでいきます。



5月 園行事

12日（木）子どもの日の会	20日（金）交流保育（年長）
16日（月）藤井先生ピアノ鑑賞（年長）	24日（火）栗本先生体育遊び
18日（水）布団乾燥	25日（水）誕生会・避難訓練
19日（木）内科検診	26日（木）耳鼻科健診

▼ ホームページ情報

Blog 内にて園行事やお散歩先の紹介などもご紹介していきますので是非ご覧ください。

そよかぜ HP QR コード



子どもの日によせて

プールに放たれた鯉

ソーっと手を伸ばして触ろうとする子ども達の気配を感じてか、真ん中に寄り集まって悠然と泳ぐ鯉。

まな板の上へのせられた鯉 固唾をのみながら見守る子ども達。

鱗を剥ぎ、はらわたを取り出すうちにまな板や包丁は真っ赤！

これは浮袋 これは心臓 これはおびれ 鯉の骨は硬いんだね まだ動いている！！

唐揚げになった鯉 その日の給食で美味しく頂きました。

【鯉ものがたり】

子どもの権利＝最善の利益を守ると約束し、誕生した児童福祉法（昭和22年制定）児童憲章（昭和26年5月5日制定）を記念し制定された子どもの日。日本も遅ればせながら子どもの権利条約を批准（平成6年世界で158番目）しました。

青空に舞う鯉のぼりを仰ぎ見ながら次代を担う子ども達の乳幼児期が豊かで、平和であることを願います。

子どもは未来を担う宝物 子ども時間が、充実した「時」になりますように。

職員の配置基準

保育園には早番や遅番も含め保育士、栄養士・調理師、看護師等沢山の職員がいます。得意も様々。読み聞かせの上手な保育士やうた・手遊び・・・和食の得意な栄養士は抜群の腕前で包丁を使いこなす等々様々な経験を持ち合わせたスタッフが集まり、知恵を出し合い、子どもたちの「今」を大事にしたいと、奮闘する毎日。

新年度が始まり乳児室はおおわらわ！新しい環境に戸惑う子ども達。眠い子、お腹の空いている子、「知らないところは嫌！」とばかり泣いている子等々、にぎやかな光景です。子どもの人数に合わせた大人が居ないと子どもの気持ちに添う事にはなりません。乳児クラスにはそれぞれにやりたい事がある子たちばかりですから、あちらこちらへ探索活動。「なにかなー？」と外界に興味を示す「科学の目」の始まりともいえるこの時期ならではの行動ですが、危険も伴いますから目は離せません。

保育士の配置基準はどのようになっているかを取り上げてみました。

子どもの年齢で配置基準が異なります。

この基準配置は児童福祉法が制定された1947年からほとんど改定されることなく現在に至っています。

「4・5歳児30人を一人の保育士が一日中保育をす

る」という基準です。保護者の勤務時間と通勤時間が保育時間です。保育士より長時間保育園で生活することになります。元気よくお友達と遊べる日ばかりではありません。子どもの気持ちを聞いたり、そっと見守る等個別に関わるような体制が欲しいと願うのですが、到底十分ではありません。園独自に予算をやりくりし、保育士を増配置して、安全を確保しています。やはり国の保育士配置基準を見直し、受け持ち人数を少なくすることが急務ではないでしょうか。ゆっくり過ごせる保育室や、走り回れる広い園庭も欲しい！（これも変わっていません。待機児童解消を図るため、弾力化運用として近くに公園があれば園庭はなくても良いとなっているのが実情です。）

「保育現場の処遇改善」は子どもの成育環境の改善です。

75年も変わらない基準 皆さんはどのように思われますか？

子：保	0歳	1・2歳	3歳	4・5歳
国の基準	3：1	6：1	20：1	30：1

職員のつぶやき

2年前まで4年間幼稚園に務め、保育現場に戻ってきたのは1年ぶり！1年間のブランクはあったものの、「保育士に復活だー！」と気持だけは当時の体力のままで4月がスタートしました。ですが、この1年間保育とは離れ、デスクワークをしていた私の体力はほとんどなく、出勤初日からヘトヘトでした。元気でたくましい子ども達についていくのは至難の業で、子どもの体力底知れず！ですね。特にこの園の子ども達は本当に身体を使うのが上手だなと日々感じています。

べた這い一つにしても手の指先からつま先まで体全体を動かしているため、子どもの真似をして実践してみたのですが、「すごく疲れる！」が私の第一声で、子どもたちは意図も簡単にやっていることに驚きました。

そよかぜ保育園 三浦星渚